

# 3 大カテゴリーで学ぶ日本建築

## 神社

[縄文-弥生-古墳時代]

<sup>やおよろず</sup>  
八百万の神が万物に宿ると考えられていた時代。山や木、岩そのものがご神体。ゆえに神事を行う場所のみが存在するシンプル・スタイル。神社の多くは建物が建つ以前からこのような信仰対象が存在しています。

日本独自の建築様式は、神社に本殿が設置されるようになって誕生。大社造(出雲大社)、神明造(伊勢神宮/写真↓)などが知られています。

[飛鳥-奈良時代]

538年の仏教伝来により、仏教色の濃い建築様式が大流行。今では一般的な大きく反った屋根や千木・堅魚木の省略もこの時期にすでにみられ、社殿の大規模化や神像崇拜も仏教にヒントを得て始まっています。



### ■神社建築の用語

**鳥居**…聖域への入口

**参道**…ほぼ一直線

**狛犬**…左右一對

**千木**と**堅魚木**

本殿の屋根に見られる神のシンボル。仏教伝来以前の古い様式の神社建築には標準的に備わる。仏教伝来以後の仏教色を帯びた建築では省略されることが多い。



(↑画像:フリー百科辞典ウィキペディアに加筆)

## 寺院

[飛鳥時代]

寺院建築の歴史は当然のことながら、538年の仏教伝来から。新興宗教にも関わらず、仏教は瞬間に浸透し、7世紀には国家公認の地位に。

現存する世界最古の木造建築である法隆寺は7世紀初頭(607年)の創建。

[奈良時代]

752年に世界最大の木造建築物である東大寺金堂/大仏殿が建立されるなど寺院建築がさらに発達していった時代。その堅牢な造りを支えていたのは、組物技法(用語集参照↓)でした。江戸期以前には釘のみならず、鉋<sup>かん</sup>すらなく、まさに建物は組上げられていました。

### ■寺院建築の用語

**伽藍**

仏教建築における建物配置の仕方。塔と混同の関係で、「一塔三金堂」や「一塔一金堂」などがある。

**金堂**…仏像を安置する建物(本堂)

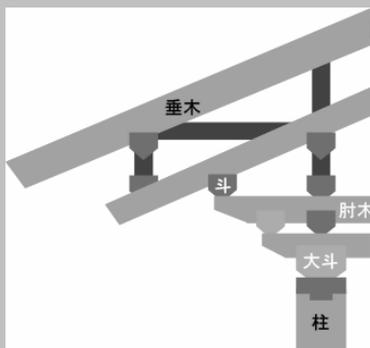
**塔**…仏舎利(仏の骨)を納める

**講堂**…經典の講義や説教をする堂

ほかに、**鐘楼**・**門**・**回廊**などが含まれる。

### 組物

日本建築において発達した独特な工法。時に全重量の 2/3 にもなる重い瓦屋根を支える梁と柱の接合部を肘木、大斗などと呼ばれる複雑な材の組み合わせで組上げる技法。釘は一切使わず、特に彫りを施すなど意匠性を持たせた「和様」、「大仏様」、「禅宗様」などが知られる。



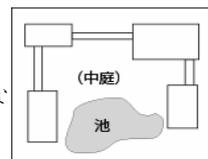
## 住居

[縄文-弥生-古墳-飛鳥(奈良)時代]

庶民住宅は関東以北では竪穴式と高床式倉庫の転用住居が平安時代まで主流。畿内では飛鳥時代より地面に木柱を立て上屋を作る掘立柱建物へ移行した。江戸期に入ると、いわゆる草葺きの農家や町家が発達していく。

[平安-鎌倉時代]

貴族住宅は、平安京の雅やかな寝殿造から。



[室町-安土桃山時代]

武家の対面儀礼や茶会の場である格調高い書院を設けた書院造が登場。床の間や畳敷き、障子など現代和風の原型はここで生まれた。また施主の趣向を凝らしたくつろぎ空間、数奇屋造は茶室文化へと発展していく。

### ■住居建築の用語

#### 竪穴式住居

縄文時代前半に出現。地面に円形の山を掘り、円錐形の屋根を葺く。

#### 高床式住居

稲作とともに伝わった倉庫。床下が吹き抜けであり、防湿性が高い。出入りは階段。

#### 掘立柱建物

地面に掘った穴に柱を立てて上屋を作る。

#### 農家

近世初期の農民の住まい。草葺の入母屋造か寄棟造。

#### 町家

江戸期以降に広がった都市型住宅の原型。長屋はコーポラティブハウスの原型か。

#### 寝殿造

平安の貴族住宅。板敷き大型ワンルームを廊下でコの字かロの字形に繋ぎ、中庭を囲むスタイルが特徴。住居というより単なる箱。

#### 書院造

格調高い武家の住まい。対面儀礼や茶会歌会の場として書院(上段の間)を設け、床の間や違い棚の調度品を備える。天井や柱にも約束事多し。

#### 数奇屋造

書院をベースにお施主様のくつろぎ空間を目指した脱フォーマル住居。好き家。

もっと詳しく知りたい方は、参考図書:月刊『カーサ・ブルーラス』2006 vol.78 9月号をご覧ください。